

令和8年度 学力向上指導改善プラン

中学校区での9年間を見据えた「目指す子どもの姿」 人との豊かなつながりの中で 明るく元気に学ぶ子 あいさつができる子 思いやりのある子

三田市立富士小学校
学 校 長 田 中 仁 朗

研究主体【 教育課程・学校改革委員会
(管理職・主幹教諭・教務主任・研究主任・生徒指導担当・新学習システム推進教員) 】

学校教育目標 わかる喜び、できる自信を実感し、人とのつながりを大切にする児童の育成

変容を目指す資質・能力 a知識及び技能 b思考力、判断力、表現力 c学びにむかう力、人間性等 d情報活用能力 e課題解決力 f学び続ける姿勢 gコミュニケーション能力

前年度		継続性	4月 ※全国学力・学習状況調査の結果などを受けて年度途中で変更する場合は削除、追記部分を赤字で修正		2～3月 年度末評価	
学力向上に向けた重点的な目標	年度末評価 (前年度の成果と次年度に向けた課題等)		学力的向上に向けた重点的な目標 (変容を目指す資質・能力)	成果となる目標 (指標となる数値等)	具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)	教員評価 (今年度の成果と来年度に向けた課題等)
・課題解決に必要な基礎基本の力及び情報を関連づける力の育成(a・b・d・e)	①「知識理解」に関する項目の平均正答率が全国平均を国語は同等、算数は上回っていた。 ②「思考・判断・表現」に関する項目の平均正答率が全国平均を国語、算数ともに上回っていた。 ③質問調査「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。」の肯定評価は全国平均と変わらない。 ④質問調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の肯定評価が全国平均+4ポイントだった。 全国学力テストの結果を見る限り、算数では、課題解決に必要な基礎基本の力をつけることができたと見えるが、国語はそこまでは言えない。国語では、引き続きチャレンジタイムでさらに漢字の学習にも取り組んでいきたい。	B	・課題解決に必要な基礎基本の力及び情報を関連づける力の育成(a・b・d・e)	①国語、算数の「知識理解」に関する項目の平均正答率が全国平均を上回ること。 ②国語、算数の「思考・判断・表現」に関する項目の平均正答率が全国平均を上回ること。 ③質問調査「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。」が全国平均を上回ること。 ④質問調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」が全国平均+3ポイント以上	・チャレンジタイム(モジュール)で四則計算や漢字学習に取り組み基礎基本の定着につなげる。 ・各教科で、情報を分析・分類・整理し、目的に応じて情報を効果的に活用し、自己の考えを論理的に述べる発表などの学習の場を設定する。	
・ICTを最大限活用した個別最適・協働的な学びの実現に向けた授業改善(c・d・e・f)	①～⑦の全ての項目で肯定的回答が80%以上だった。その上、②と④以外は、全国平均を上回る結果となった。 「ICT機器を使って学校のプレゼンテーションを作成することができると思いますか」の質問にも、全国平均を15.2ポイント上回る肯定的な回答があった。5年生での国語や総合的な学習において、共同編集機能を活用しながら、伝えたい情報を効果的に伝える学習を積み重ねることがつながっているため、引き続きICTを効果的に取り入れて活用していく。	A	・ICTを最大限活用した個別最適・協働的な学びの実現に向けた授業改善(c・d・e・f)	・タブレットなどのICT機器を活用することについての質問調査 ①自分のペースで理解しながら学習を進めることができる。 ②わからないことがあった時にすぐに調べることができる。 ③楽しみながら学習を進めることができる。 ④画像や、動画音声などを活用することで学習内容がよくわかる。 ⑤自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる。 ⑥友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる。 ⑦友達と協力しながら学習を進めることができる。 7項目のうち4項目以上で肯定的回答が80%以上。	・情報教育に関する各学団別の目標を設定し、子どもにつけたい力を明確にする。 ・グループワーク、フィールドワーク、実験やプレゼンテーションなど様々な学習活動を取り入れ協働的な学びを促す。 ・ICTを活用しオンラインプラスを活用した児童の相互意見交換や共同編集機能を活用した情報共有や情報発信の場を広げる。	
・主体的・対話的な学びを中心とした研究の推進(c・g)	①学校評価における教職員アンケートによる肯定評価は昨年度と大きくは変わらなかった。 ②質問調査で「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。」が全国平均+5ポイントであり、92%の児童が肯定評価だった。 この結果から、主体的・対話的な学習ができつつはある。引き続き、中心発問から授業のねらいに迫り、問い返しを重ねて主体的対話的な深い学びを進めていきたい。	B	・主体的・対話的な学びを中心とした研究の推進(c・g)	①学校評価における教職員アンケートによる肯定評価を前年度より高める。 ②質問調査で「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。」が全国平均+3ポイント以上	・研究授業や事前事後研修会を通じて、中心発問から授業のねらいに迫り、問い返しを重ねて主体的対話的な深い学びにつながる授業づくりを行う。 ・先行研究に学んだり、交換授業を通して授業研究に取り組む。	
・家庭における学習習慣の確立(c・f)	①学校評価における保護者アンケートで「子どもは進んで学習しようとしている」の項目で66.9%が肯定評価となり、目標に届かなかった。 ②学校評価における児童アンケートで「宿題の他に自分で決めて学習していますか。」の項目で71%が肯定評価だった。タブレットの宿題だけでなく、紙での宿題も併用し、家庭学習の習慣をつけ、読書などに自発的に取り組めるようにする。 ③質問調査で「学校の授業時間以外の学習時間」が一日あたり1時間以上という回答が全国平均+10ポイントであった。	C	・あいさつを通じて人とつながる児童の育成(g)	①学校評価における保護者アンケートで「進んで挨拶をしている」の項目で70%以上が肯定評価。 ②学校評価における児童アンケートで「積極的に読書している」の項目で70%以上が肯定評価。	・自分から先に挨拶ができるよう指導していく。 ・学校内だけでなく、学校外でも進んで挨拶ができるよう指導していく。 ・「にこにこデー」の活動については、児童が主体的に挨拶できるよう、代表委員会で子どもたちと考える。	
・読書活動の充実(a・c・f)	①学校評価における保護者アンケートで「積極的に読書している」の項目で50.7%が肯定評価。 ②学校評価における児童アンケートで「積極的に読書している」の項目で75%が肯定評価。 高学年で肯定評価が下がっているため、高学年も週に1回図書室へ行く時間を作ることで、本に触れる機会を作る。2年生以上でビブリオバトルに取り組んだことは、興味関心を高めることにつながったので、来年度も継続していく。	C	・読書活動の充実(a・c・f)	①学校評価における保護者アンケートで「積極的に読書している」の項目で80%以上が肯定評価。 ②学校評価における児童アンケートで「積極的に読書している」の項目で80%以上が肯定評価。	・学校司書と連携し、各教科学習と読書活動を結びつける。 ・ビブリオバトルやブックトークなどの活動を組むことで興味関心を高める。 ・チャレンジタイムの読書活動の日、毎月の家族読書の日を充実させる。	
・家族・人・地域とつながる9年間を見通した小中連携の推進(b・g)	①学校園所連絡会を年4回以上行った。 ②富士中学校区連絡会(児童生徒)を年2回行った。 計画委員会が中心となって、富士中学校区連絡会で決定した4校共通の「トイレットペーパーのしんを集めてリサイクルしよう」に取り組んだ。全校生に呼びかけて、たくさん集めることができた。	B	・家族・人・地域とつながる9年間を見通した小中連携の推進(b・g)	①学校園所連絡会を年3回以上行う。 ②富士中学校区連絡会(児童生徒)を年2回以上行う。	・中学校区において、授業参観、挨拶運動などにより、交流を図ったり、児童の現状や課題について情報交換をしたりすることで課題の共有化を図る。 ・全国学力・学習状況調査の合同分析を行う。 ・計画委員会、生徒会が中心となり人とつながるをテーマに投げかけ、全校で取り組む。 ・9年間を見通したカリキュラムの研究を行う。	

○「教員評価」は教員対象に実施した自己点検調査結果(0～4の5段階評価)の平均値
 ○「評価」は年間の取組みについて、4段階で評価
 A・・・十分に達成 B・・・おおよそ達成
 C・・・達成が不十分 D・・・ほとんど達成できず